

基本構想審議会(第1部会)【産業・みどり】の検討における論点について

第1部会—資料22

分野	分類	論点	その理由	区の実施と成果	今後の課題
共通事項 (再掲)		SDG s の関連テーマの取り組み	大きな社会の変革のためには、個人や民間企業、団体だけではできないことに限度がある。国はもちろんのこと杉並区がその地域に合わせた取り組みを支えることが重要と考え、基本構想を構成する大きな柱として分野横断型での議論が必要と考えます。 	/	●第1部会審議の共通事項として検討する。
		SDG s の視点から見た現状と今後必要な施策	SDG s のすべてのゴールを区として目指せ、という意味ではありません。(理由になっておらず申し訳ありません)		
		アンケート結果の分析と取り組み方	一例を挙げれば、まちづくりで、区民・職員共に「安心・安らぎ」を求め、「にぎわい」は下位になっていますが、産業振興といかに整合させるか。等		
		杉並区が持つ資産の価値向上	現在必要とされ、欠けていることを補っていくことと共に、アンケートからも示されている杉並の特徴的価値をいかに向上させていくかが必要と考えます。		
まちづくり・産業	みどり・公園・農業	新道と緑地	中杉通りの延伸は本当に必要なか? 延伸する場合、善福寺川緑地との構造をどのようにするかなどについて(資料20-2)	●中杉通り(補助第133号線)は、防災都市基盤及び、南北交通の強化の観点から延伸が必要と考える。善福寺川緑地との構造については、未定である。	●沿道については、景観形成や防災機能の強化、生活利便性や周辺住環境に配慮した用途規制、高さ制限など、都や関係部署と連携し、検討していく必要がある。
		「まちづくり庭園」の社会的仕組みの構築と実装化(都市農空間の保全・利活用を通じた区民まちづくり事業の創出。農業・福祉・環境・地域教育の連携。)	都市農地(生産緑地)、緑と水のマスタープラン、緑地・公園計画など個別計画を横断・包括する「まちづくり庭園」制度の構築と、それを活かした、選択される住環境と区民まちづくり活動の目標、事業制度の開発、構築が重要である。	●杉並区みどりの基本計画、緑地保全方針や東京都と区市町村合同で策定した「緑確保の総合的な方針」による農の風景育成地区制度などによる屋敷林や農地の保全に取り組んでいる。 ●農業と福祉の連携事業として農福連携農園を整備し、収穫物を活用した福祉施設等の運営支援、農地を活用した障害者・高齢者の生きがい創出や健康増進につながる取組を実施するとともに農地保全を図った。現在は、令和3(2021)年4月の全面開園に向け、かつての農の風景を想起させる木造の管理棟建設を進めており、緑化も確保していく。	●屋敷林や農地の保全には区民の理解を得ること、支援できる体制を作ることなど様々な視点や方法がある。今後も多角的な視点から仕組みづくりをしていくことで屋敷林と農地の保全を進める必要がある。 ●今後は、現在の区民ボランティアに加え、障害者団体、地域の農業者や住民、区内教育機関、民間事業者など、農園を中心として多様な主体が連携し、農園の担い手として、事業を発展させていくことが必要と考える。

分野	分類	論点	その理由	区の取組みと成果	今後の課題
		地産地消の推進	身近な所で安全・安心な食べ物が作られている都市農業と緊急時の避難場所の重要性。	<ul style="list-style-type: none"> ●都市農地は、農産物の生産の場に留まらず、防災スペースとしての活用も期待されている。農地所有者に農地保全制度を周知し、農地保全に繋がる取組を支援するとともに、生産性向上を図るため認定農業者制度や営農活動支援補助金などにより支援を実施した。 ●地産地消の推進のため、直売所・即売会の周知や学校給食に区内産農産物の活用等の支援を実施した。 ●即売会については規模の大小はあるものの年間50回程度開催され、区民に杉並農業の周知を図ることができた。 ●毎年平均28校の小学校に区内産野菜を給食食材として供給するとともに、農家の方々による訪問授業により、子どもたちに杉並の農業や杉並産農産物について周知を図った。 ●都の補助事業を活用し、通常は農業用水として、災害時には近隣住民の生活用水として提供できる非常用電源を備えた防災兼用農業用井戸をこれまでに21基整備。小中学生の体験学習や看板設置により農地の防災機能について周知を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農産物の生産性向上とともに都市の農地は防災スペースなど様々な機能を合わせ持っている。これら貴重な財産である農地を後世に引き継いでいくことが重要。 ●高額な相続税や後継者不足が大きな課題。